

## 第20回 全日本実年ソフトボール大会 北海道予選会

主催 北海道ソフトボール協会  
 主管 石狩管内ソフトボール協会、恵庭ソフトボール協会  
 後援 恵庭市、恵庭市教育委員会、NPO法人 恵庭体育協会  
 会期 平成23年7月23日（土）～24日（日）、予備日25日（月）  
 会場 島松屋外運動広場 恵庭市南島松389-3  
 抽選 試合の組み合わせは、7月7日（木）北海道ソフトボール協会において、主催者立ち会いのもと代理抽選により決定する。  
 開会式 7月23日（土） 9：30から 島松屋外運動広場

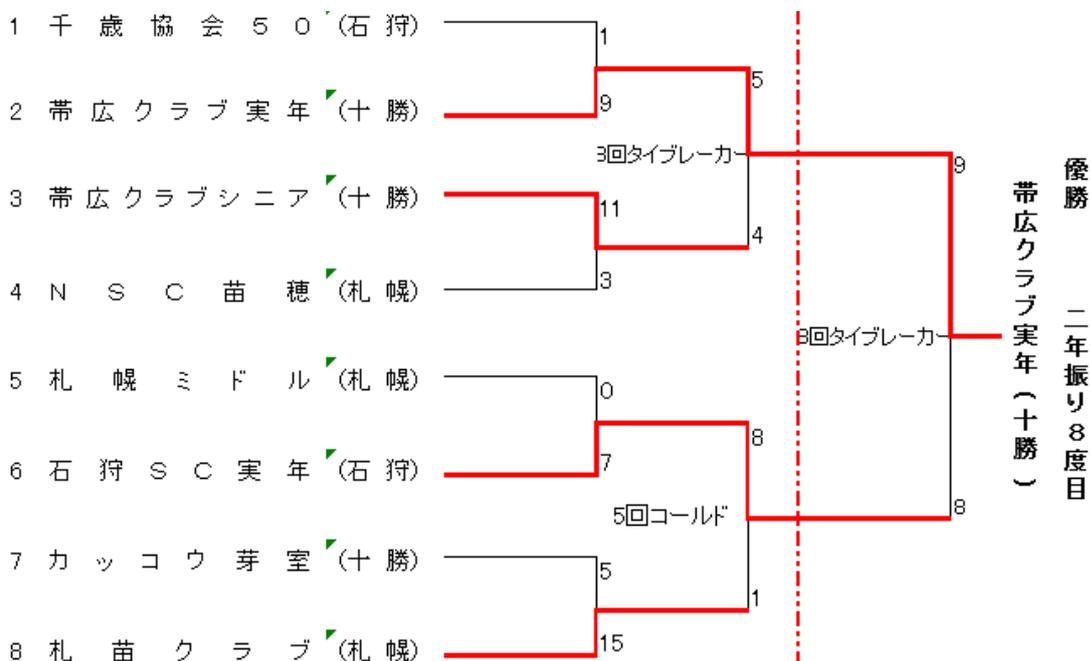
全国大会日程等

◎ 第20回全日本実年ソフトボール大会

平成23年9月23日（金）～25日（日） 会場：弘前市

◎ 第5回東日本ミズノ杯実年ソフトボール大会

平成23年8月20日（土）～21日（日） 会場：栃木県宇都宮市



1回戦 【試合開始】 10時21分 【試合終了】 12時00分 【中断時間】 0時00分 【試合時間】 1時間39分 No.1  
 審判員 球審 加藤隆 一塁 山中勝 二塁 茶園利紀 三星 澄田茂子  
 記録員 瀬戸綾乃 放送 三上莉央

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
千歳協会50 (石狩)	0	1	0	0	0	0	0								1
帯広クラブ実年 (十勝)	0	6	0	0	2	1	X								9

(バッテリー) 先攻 (投) ●勝目森満、山田光司 --- (捕) 高橋勝之  
 [勝:○, 負:●] 後攻 (投) ○中川弘直 --- (捕) 小森鉄夫  
 先攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 山田光司  
 (長打) (二塁打) --  
 後攻 (本塁打) -- 小森鉄夫 (三塁打)  
 (二塁打) -- 橋本健一

帯広クラブ実年は、2回表に先制を許したが、その裏すぐ四球と守備の乱れに乗じて逆転し、更に二死走者2塁で3番「小森」の左中間本塁打で加点しこの回一挙6点を挙げ試合を決定付けた。中川投手は3回以降安打で走者を出しながらも要所を押さえる粘りのピッチングでチームの勝利に貢献した。

1回戦 【試合開始】 12時23分 【試合終了】 13時50分 【中断時間】 0時00分 【試合時間】 1時間27分 No.2  
 審判員 球審 菅原俊一 一塁 高橋茂 二塁 加藤隆 三星 山中勝  
 記録員 基本康子 放送 門脇芽花

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
帯広クラブシニア (十勝)	2	0	0	6	0	2	1								11
NSC苗穂 (札幌)	0	0	2	0	1	0	0								3

(バッテリー) 先攻 (投) ○吉田進之丞 --- (捕) 井上義幸  
 [勝:○, 負:●] 後攻 (投) ●工藤修 --- (捕) 宮崎昭治  
 先攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 木本三郎  
 (長打) (二塁打) -- 大友義幸、木本三郎、吉田郁夫  
 後攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 広瀬洋司  
 (二塁打) --

帯広クラブシニアは、同点に追いつかれた4回表5番「大友」の安打に始まり犠打を絡めた手堅い攻撃で7番「吉田」4番「木本」の二塁打を含む5安打を集中させて6点を挙げ、序盤の接戦ムードを吹き飛ばし試合を一方的なものとして快勝した。

1回戦 【試合開始】 12時16分 【試合終了】 13時49分 【中断時間】 0時03分 【試合時間】 1時間30分 No.3  
 審判員 球審 吉田尚信 一塁 鈴木義勝 二塁 月田孝一 三塁 市川幸美  
 記録員 木之内和子 放送 佐藤可菜

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
札幌ミドル (札幌)	0	0	0	0	0	0	0								0
石狩SC実年 (石狩)	2	0	2	0	1	2	X								7

(バッテリー) 先攻 (投) ●中浦宏俊、大津欣也 --- (捕) 黒川利勝  
 [勝:○, 負:●] 後攻 (投) ○田代和行 --- (捕) 山根健彦  
 先攻 (本塁打) -- (三塁打) --  
 (長打) (二塁打) --  
 後攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 可香睦夫  
 (二塁打) 高橋裕治

石狩SC実年は、初回から機動力を活かした攻撃で2点を先攻した。3回には7番「高橋」の二塁打、6回には4番「可香」の三塁打もあり着実に加点した。守っては「田代」投手が相手の攻撃を散発の4安打に抑え、硬い守りで完封勝利した。

1回戦 【試合開始】 10時20分 【試合終了】 11時53分 【中断時間】 0時00分 【試合時間】 1時間33分 No.4  
 審判員 球審 市川幸美 一塁 山崎正昭 二塁 門脇文雄 三塁 鈴木義勝  
 記録員 中島悠 放送 加地史緒里

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
カッコウ芽室 (+勝)	0	0	0	0	4	1	0								5
札幌クラブ (札幌)	10	0	3	1	1	0	X								15

(バッテリー) 先攻 (投) ●渋谷正茂 --- (捕) 松井達雄  
 [勝:○, 負:●] 後攻 (投) ○成田実、元木俊一 --- (捕) 大瀬英俊、小林英俊  
 先攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 高原誠一  
 (長打) (二塁打) --  
 後攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 伊東孝志  
 (二塁打) -- 川真田勇貞男

札幌クラブは、初回一死から6連続安打を含む7安打に加え、4番「伊東」の中堅越三塁打でダメ押しの10点を挙げ勝負を決めた。大量点を「成田」から「元木」への投手リレーで反撃を5点に押さえ勝利した。

準決勝 【試合開始】 14時42分 【試合終了】 16時22分 【中断時間】 0時00分 【試合時間】 1時間40分 No.5  
 審判員 球審 門脇文雄 一塁 山崎正昭 二塁 吉田尚信 三塁 月田孝一  
 記録員 外山由香 放送 加地史緒里

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
帯広クラブシニア (+勝)	1	0	0	0	3	0	0	0	8回タイブレーカー						4
帯広クラブ実年 (+勝)	0	0	0	1	0	3	0	1							X

(バッテリー) 先攻 (投) ●吉田進之丞 --- (捕) 井上憲二  
 [勝:○, 負:●] 後攻 (投) ○中川弘直 --- (捕) 高橋信博  
 先攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 木本三郎、吉田郁夫  
 (長打) (二塁打) -- 井上憲二、鈴木昇  
 後攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 太田一夫  
 (二塁打) --

帯広クラブ実年は、常に先攻される展開を2度も追いつき延長に持ち込むと、8回裏タイブレーカーの走者を犠打で3塁に進め7番「鈴木」の絶妙なバントで走者を迎え入れ、サヨナラで帯広対決に終止符を打った。

準決勝 【試合開始】 14時25分 【試合終了】 15時38分 【中断時間】 0時00分 【試合時間】 1時間13分 No.6  
 審判員 球審 茶園利紀 一塁 澄田茂子 二塁 菅原俊一 三塁 高橋茂  
 記録員 瀬戸綾乃 放送 三上莉央

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
札幌クラブ (札幌)	1	0	0	0	0	5回コールド									1
石狩SC実年 (石狩)	1	4	0	0	3x										8

(バッテリー) 先攻 (投) ●成田実 --- (捕) 大瀬英俊  
 [勝:○, 負:●] 後攻 (投) ○田代和行 --- (捕) 山根健彦  
 先攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 高橋敏之  
 (長打) (二塁打) --  
 後攻 (本塁打) -- (三塁打) --  
 (二塁打) -- 高橋裕治、徳差勝弘、可香睦夫

石狩SC実年は、同点で迎えた2回裏5番「勝俣」6番「山根」7番「峯」の3連打で勝ち越すと、二死から2番「長谷」3番「徳差」2塁打で4点を挙げ試合を決定づけた。5回裏には8番「木村」のタイムリーで7点差をつけコールドゲームで連覇に王手をかけた。

決勝 【試合開始】 9時51分 【試合終了】 12時03分 【中断時間】 0時00分 【試合時間】 2時間12分 No.7  
 審判員 球審 佐藤和哉 一塁 山崎正昭 二塁 加藤隆 三塁 茶園利紀  
 記録員 榎本康子 放送 門脇芽花

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
石狩SC実年 (石狩)	3	0	0	0	0	0	5	0	8回タイブレーカー						8
帯広クラブ実年 (十勝)	4	0	0	2	2	0	0	1x							9

(バッテリー) 先攻 (投) ●田代和行 --- (捕) 山根健彦  
 [勝:○, 負:●] 後攻 (投) ○中川弘直 --- (捕) 小森鉄夫  
 先攻 (本塁打) -- 可香睦夫 (三塁打) -- 高原誠一  
 (長打) (二塁打) -- 勝俣 到◎  
 後攻 (本塁打) -- (三塁打) -- 鈴木俊一、木田一夫  
 (二塁打) -- 小森鉄夫、川元孝行

帯広クラブ実年は、5点をリードし、誰もが優勝を確信した7回表に、二死から同点とされ延長戦に突入した延長8回裏、タイブレーカー走者を、この試合4安打と当たっていた「太田」が犠打で3塁に進めると、2番「速水」の投手前バントで三塁走者を迎え入れ、劇的なサヨナラとなった。最後まで、勝利に執念をみせ昨年の雪辱を果たして8度目の優勝を勝ち取った。一方、石狩SC実年は、7回表に劇的な粘りを見せ、同点振り出しに引き戻すも、後一歩及ばず惜敗した。